

チャペルの窓

「新年に歳を忘れる」

黒田 朔



「うちの子はもう5歳なのに、まだオムツがとれないのよ」に始まり、「わたしはもう70を超えたから、こんな派手なのは着るのは恥ずかしい」に至るまで、私たちはいつも「歳」を気にし、時には、「歳」に縛られる。それは、「赤信号、みんなで渡れば怖くない」と言われたような周りと同じであることで安心を得る生き方と同じだろう。

「同じであること」が生活を支える農耕民族である私たち日本人は狩猟民族である他人種とは違うのかも知れない

が、人はそれぞれ、みな、違う。いいえ、すべての人は創造主である神様の作品で、神様のご期待は一人ひとりみな違う。若くても、年取っていても、あなたがあなたらしさで輝ける生き方を見つけて「あなたらしさ」で「あなたらしく」生きる時、周りもあなたを見て「すばらしい」と思い、何よりあなた自身があなたらしさを喜び、楽しむことができる。2025年の年始めに歳を忘れて、自分らしさを輝かす一年としたいものと思っています。

しかし、今、【主】よ、あなたは私たちの父です。私たちは粘土で、あなたは私たちの陶器師です。私たちはみな、あなたの御手のわざです。（イザヤ64:8）